



人生の(一)馳走

年齢を重ねてくると出来なくなることが現れる。ライフステージが先に進んでしまったことに気づかない振りをして今持っているものに執着すると醜くなることもある。生き物として清廉且つ簡潔に生きたいものである。その一方、年齢を重ねて良くなることもあるのを最近身をもって知った。

若い頃から長い間愛してやまないスタローンも今年で七五歳、それは私も年をとるはずである。お陰でカリフォルニアで働いていた頃のギリギリしたエネルギーが影をひそめ今や別人になりつつある。世の中に迷惑をかけず、醜態を露呈しかねない機会に身を置かず、次世代へ譲り、そして自らの居場所を丁寧に設計構築していくフェーズに入っている。徹底的に断捨離をして身軽な自分になるのが今の目標。手放したことで自分の中に空きスペースが出来始めたからなのか、これまで意識が向かうことさえなかったものに興味を惹かれることが増えた。興味の対象が拡がりその善さを落ち着いて味わおうとする自分がいる。結果、生きていくことの素晴らしさに改めて気づかされ、新しい知覚能力(センサー)をもう一つ手に入れたかのようである。

そんなある日、今年の春のこと。大学時代の友人から宅急便が送られてきた。「昔、お前が大事にしていた本を偶然見かけたので送る。相当珍しいはず。それにしてもお前いつも一生懸命

やっていたよな。」そんな走り書きが添えられていた。自身は、NHKラジオ英会話のテキストを一年分集めて冊子化した分厚い本とCD。色褪せてはいたがその表紙を見た瞬間に全てを思い出した。大学時代、四年間、夢中で聞いていた大杉正明先生のラジオ英会話の本だった。これをお読みのご父兄の中にはもしかしたらご存知の方もいらっしゃるかも知れません。

ラジオ英会話、しかもあの大杉正明先生の。一日に見聞き一つ二〇分間の放送。年間で一つの壮大なストーリーを回す。NHKの朝の連続ドラマばりに引き込まれてしまう物語を毎日英語でやる。そのストーリーの秀逸さ、使われている英語表現の素晴らしさ、生き生きとした挿絵、大杉先生とアメリカ人先生達とのやりとりの面白さ。声優陣の演技力とその英語の響き。シリコンバレーで働くことを目指していた当時の私にとって、日本人が日本で英語教育を受けて到達出来る英語力では「戦闘力不足」に陥ると常々恐れていた。それを回避してネイティブに近づける唯一の方法は「圧倒的大量のインプット」しかないとの頃既に悟り始めていた。大学で英語系の授業を最大限受講したとしてもそのインプット量では全く足りず一人工夫を続けた。洗礼を受けキリスト教徒になりすまし教会に通い、牧師や周りの家族が英語で聖書を読み合わせするのを夢中で聞いて覚えることもあった。



インターネットがなくYouTubeがない中で何とかして良質の「音源」を獲得し残された時間内でどれだけ自分の「戦闘力」を上げられるか必死だった。そんな中、大杉先生のラジオ英会話に出会ったのである。月曜から金曜までの本

文をシャドーイングで毎日暗記し土曜日の放送でその一週間分の本文を全て諳んじるのを最低限の目標として課していた。大杉先生のこの番組の後に放送される「ビジネス英会話(杉田敏先生)」も月曜から金曜まで同じやり方をして合計四〇分毎日四年間本文を覚え続けた。全く辛い作業ではなく、毎日楽しんでやっていた。放送が終わったテキストを捨てる事が出来ず四年分を部屋の隅に積み上げているのを友人によくイジられた。夢中だった。青春のページ。

そして、年をとった今、再び、大杉先生のラジオ英会話に三〇年振りに出会った。あの頃の挿絵、あの頃の表現、あのドラマ仕立てのストーリー。覚えていたものである。改めて、英語の「響き」に魅了される。ストーリーに登場する主役の青年。当時の自分はこの青年の目線だけでストーリーを味わったが、今は違う。その青年の父親役、母親役、恋人役、学校の先生、家族の中の様々な出来事、人生の機微。年をとってその全ての目線で話を味わえる。そして、何よりも、この英語の音の「響き」。これが自分にはたまらない。

塾が休みの日の夕方。ビールを飲みながら聞くのである。同じように年齢を重ねた妻、次世代を生きる我が子がそれぞれ近くで生活音をたてているリビングで好きなビールを飲みながら大杉先生のラジオ英会話。例の「新しい知覚能力を手に入れた」この年齢だからこそ味わえる贅沢なのである。ああ、英語っていいなあ。

ちなみに、本能的に編み出し四年間継続したこの英語本文まる覚え作戦。ずばり、それは創学会でやっている英文テストである。これは効果がある。自らの人体実験で検証済みである。

集団知 17

英語力をつけたいみなさんいっしょに英文テストを頑張ろう！ (石塚)

●集団知(知っている、知らないに関わらず集団として受け入れた価値観・判断)の続きである。

●前回述べたスマホに夢中の生徒達はいずれも高い志望校を目指している。GMARCHや国立である。高校入試の偏差値が60台後半であればまだしも、50台半ばの生徒もいる。50台半ばの生徒は、模試で校内トップになるぐらいの成績がまず必要である。目指すのは大いに結構。問題はスマホ中心の生活を送りながら、そこを目指すという感覚である。みんな人柄は良い。しかし、このずれた感覚というのはどこかに進学したあとも、就職に際しても、大きな障害となるだろう。

●視点を少し変えて、語彙の面から考察してみる。生徒面接は週に三十人から四十人を目安に組み、もう何年も続けている。目的はいくつかあるが、その一つが語彙力の観察である。勿論、口下手で上手く言いたいことを伝えられない生徒もいるが、それでも頭の中に多くの語彙をたくわえているかどうかは回数を重ねれば分かる。この内的語彙とでもいうべき語彙も含めて、どれぐらいの語彙があるか探るのである。また、授業でのやりとりもその観察の重要な一つである。加えて、生徒がおしゃべりをしてしているのを通りすがりに聞くのも役に立つ。



●いえることは、日常的に使う(面接で話す、授業中に話す、生徒同士で話す)語彙に大きな差があることである。偏差値が上位の生徒や明らかに本をよく読んでいる生徒は豊かである。勉強の話をしているときも「論理」「習慣」「つながり」「流れ」「趣旨」「話の展開」などが出てくる。この生徒たちは、こういう言葉が十分に日常語彙になっている。高校入試でそれほど頑張っていない(自分では「頑張った」と言うが「頑張る」の基準が低い)生徒からこういう言葉が出てくることはない。加えて、スマホを毎日何時間もやっているとすれば、受験に関しては絶望的である。

●また、学習語彙というのもある。これは、科目を問わず、問題や解説を読んで内容を理解するために必要なものである。音として読み方が分かって十分ではない。例えば、国語の問題文を読んで内容を理解するとき、漢字を音として読めても意味が分からないと理解は不可能である。問題文の内容が理解できない人は、当然、設問の選択肢の内容も理解できない。本人は、一生懸命やっていますが、内容が理解できないままやっているのです。それは「迷う」という行為にすぎない。とりあえず出した解答は、「カン」によるもので、考える力・解く力の向上にはつながらない。むしろ、「カン」によって答を選ぶという習慣が強化されることを考えれば、「害」といえる。そしてその習慣は、本人の無力感へとつながる。

●実は学習語彙は、受験のためではない。レポート、卒業論文、エントリーシート、企画書、プレゼンテーションなどでも使われる。語彙の

乏しい生徒はこれから様々な場面で「損」を重ねていくことが予想される。

●さて、人柄はよくて、スマホ中毒の生徒達の日常語彙を増やし、学習語彙を増やすためにどうするか? 難問である。(以下次号)

(小林)

大変だ!

よく歳をとればとるほど時間が早く過ぎるという。実際私も一週間があつという間に過ぎ、気づけば一年が過ぎていて、という感覚である。子供のときより時間が早く感じるのは、物事に感動する機会が少なくなっているからだそう。子供のときは毎日心を動かされることがある。友達と楽しく遊んだ、夕食が大好きなハンバーグだ等々……。

そのような一年を過ごしていると、毎年同じような日々を過ごしてあつという間に人生の終わりを迎えるのかなど考えてもみる。しかし、最近ではコロナで普段と違う生活を強いられ、特別な日々を過ごしていた。しかし、マスクをして生活することも当たり前となり、また、時間があつという間に過ぎていく。時間に関する感覚が鈍くなる。



しかし、時間は確実に経過している。

まず、目が見えなくなってきた。今まで見えていたスマホが見えない。本が読めない。なんと不便になってしまったのか。おまけに白髪も増えてきて老化が目に見えて自分を侵食している。気分はまだまだ学生と同じくらいと思っ

いたけれど肉体的には完全におじさんになっている。驚愕。

考えてもみると当たり前で、気分は学生といったが、自分の子供がすでに大学生になり、自分の気分と同じ年代になっているではないか。当然、その分自分が歳を積み上げている。

とまあ最近の私はそんなことを感じているのだが、何が言いたいのか?

光陰矢の如し

時間が経つのは速いということだ。小学生はまだそんなことを考えて生きていないだろうが、中学生、高校生くらいになると、毎日がつまらない、変化もなく面白くない、そんなことを感じながら生活している人も出てくるだろう。ちなみに私たちにも、みんなのお父さんやお母さんにも小学生や中学生の頃が存在し、高校生のときには部活や、恋愛に夢中になっていた時代があったのだ。

毎日を楽しく、やりたいことをしっかりやって過ごしても、つまらないなあと思つて過ごしている、結局時間は同じように過ぎていく。つらい日々を過ごしている人に、止まない雨はないと励ますつもりもないし、毎日充実してしっかり生きなければ将来後悔するぞと脅すつもりもない。

私自身が、十分有効に時間を使っていると胸を張っているわけでもない。

ただ時間はどんどん速く過ぎていくということを知ってほしいと思つただけである。若いみんなはまたまだやれることも多い。何をやるかを選択して、どういう将来を思い描いているのか? これからの時間をどう使っていくのかは自分自身にかかっている。(松永)

現小学6年生対象 『新中1準備講座』 2月開講

授業日程(全11回)		
教室	柏・江戸川台	我孫子・新柏・流山おたかの森
日程	2/7(月)~3/21(月)	2/4(金)~3/15(火)
曜日	月・木	火・金
授業時間	16:50~18:25 ※柏教室17:00~18:35	

授業のポイント

中学1年の始めにつまずいてはならない「数学」と「英語」の先取り授業です。学習内容の「理解と習熟」はもちろん、ノートを使い方・宿題の取り組み方等も指導し、「学習の仕方・学習習慣の定着」を図ります。英語は学習段階別のコースで、新課程となった現在の教科書の細部まで十分に扱い、表現の確認で終わらず、英語・英文の体系的理解を目指します。全てが新しい環境となる中学生活で、順調なスタートが切れるよう応援いたします。